

ベースラインの算定方法に関する資料

本プロジェクトでは、磯焼けが進行する中で、藻場の面積を維持するために実施したものである。そのため、プロジェクト開始前（2015 年）より評価時点（2023 年）にて藻場面積が低下している可能性もある。このため、ベースラインは Before-After、Control-Impact の両面から以下の式を用いて評価した。

ここで、2015 年のワカメ・ガラモ類の吸収量は、2023 年と同様の方法論を使用した。ただし、福岡県が実施した吸収係数を算定するためのツボ狩りの地点は、本プロジェクトにおける駆除区・対照区と一致していない箇所もあること、衛星画像解析から得られた駆除区と対照区の藻場面積の差が小さいことから、ベースライン時点において、各海域の駆除区と対照区の吸収係数の差は無視し得るものであったと仮定し、ワカメ・ガラモの湿重量は各海域における平均値をウニ駆除、対照区ともに用いた。

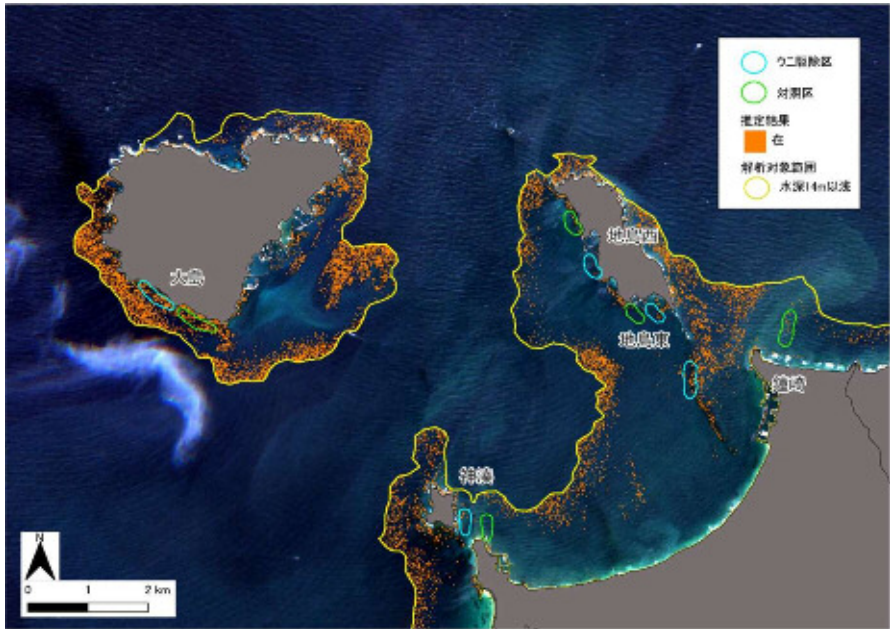


図 1 衛星画像解析結果（2015 年 3 月）

表 6 ウニ駆除区内のワカメ・ホンダワラ類生育範囲の面積

場所	駆除区 藻場面積 (ha)	対照区 藻場面積 (ha)	駆除区/対照区
大島	4.3	4.0	1.1
地島西	0.1	0.7	0.1
地島東	0.3	0.1	3.0
鐘崎	1.5	0.7	2.1
神湊	0.4	0.06	6.7
計	6.6	5.6	1.2

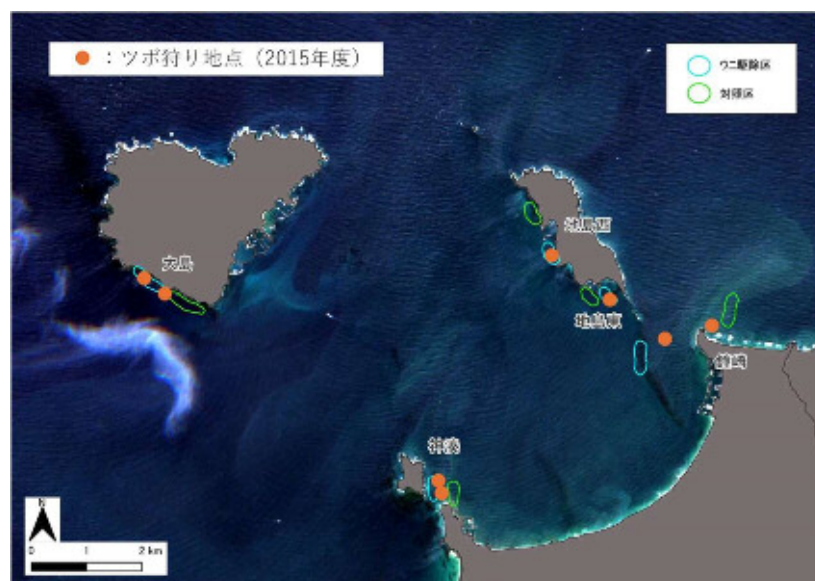


図 1 ベースライン算定に用いたツボ釣り調査の実施地点 (2015 年 1～3 月に実施)

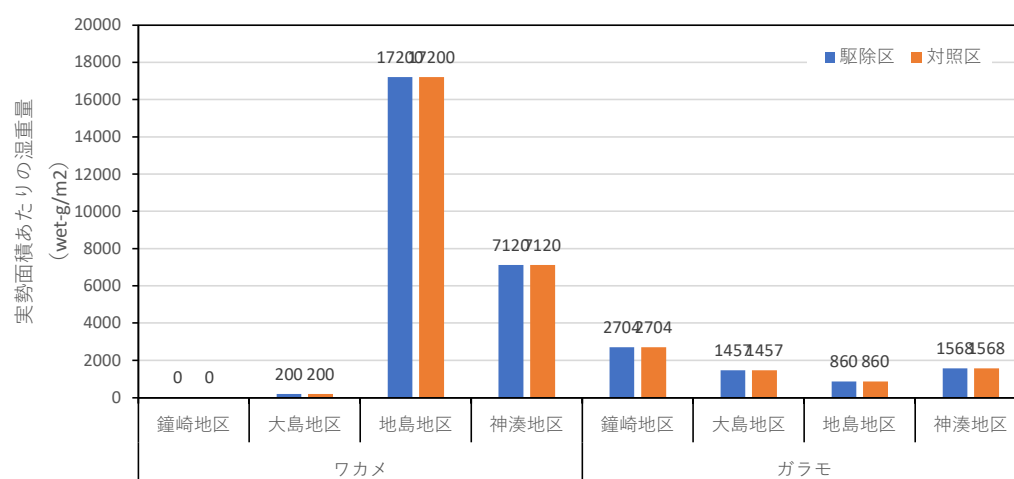


図 2 ベースライン算定に用いた実勢面積あたりの湿重量 (2015 年 1～3 月に実施)